

## 「クロマグロ」 季節回遊の経路を追え

### 事例の蓄積必要

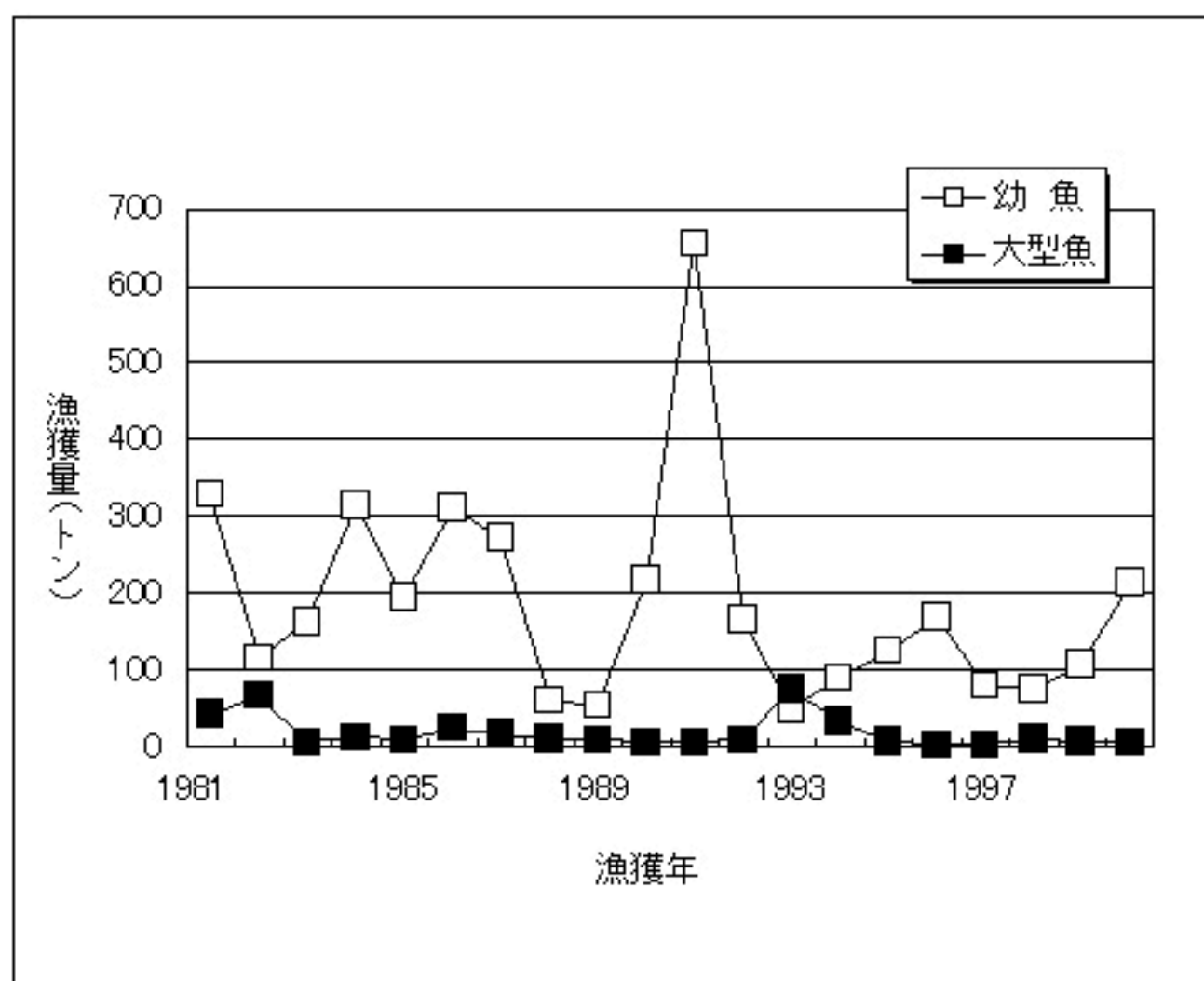
日本海におけるクロマグロは、夏から秋に北上し、秋から冬に南下する季節回遊を行うとされている。

富山湾で漁獲されるクロマグロの大部分は、体長20～50cm、体重約3kg以下の幼魚で、市場ではメジヤシビコと呼ばれる。これらは、例年10～2月の南下期に、定置網のほか、ひき曳釣りや八艘張網(はっそうばりあみ)で毎年50～200トン程度漁獲され、重要な漁獲対象種となっている。過去に600トン以上もとれたことがあり、漁獲量の変動が大きい。富山湾西部における漁獲量が多くを占め、その動向によって富山県のクロマグロ幼魚の漁獲量が大きく左右される。

初夏には、体長1m(約20kg)、ときに2m(約170～190kg)を超える大型のマグロがとれるが、最近の大型マグロ(内臓抜きで約20～30kg以上)の漁獲量は、年間5トン程度に過ぎず、幼魚に比べて低調となっている。

これまで、漁獲状況や魚体の大きさに関するデータが集積されてきたが、回遊に関する情報はいまだ不足している。近年、アーカイバルタグというデータ記録保存型の標識が開発され、これまでの方法では知りえなかった長時間の遊泳行動や回遊経路などがこの標識を使って明らかにされるようになった。

この標識を利用した幼魚の放流調査が平成10～11年度に富山湾で行われた。再捕魚のほとんどは短期間に湾内で漁獲されたが、1尾は、1月中・下旬に日本海を西進し、対馬海峡から東シナ海に入り、約半年後の6月に対馬海峡で再捕された。富山湾に来遊する幼魚の回遊経路を明らかにするためには、さらに多くの事例の蓄積が必要である。(若林信一)



富山県におけるクロマグロの捕獲量  
(富山統計情報事務所:富山県漁業の動きより)